

神靈 泥奢尊

氏子 升田村 砂部村。〔村翁夜話集〕

○村社 益氣神社 池尻村

祭神 泥土煮命 水波能賣神 大年神

氏子 池尻村

當社は寛永三年丙寅九月升田村益氣神社より分靈を勸請せしもの也。

一若一王子權現 池尻村

神靈 泥奢尊 氏子 池尻村。〔村翁夜話集〕

○村社 益氣神社 出河原村

祭神 益氣大神

氏子 出河原村

當社は寛永十七年庚辰九月升田村益氣神社より分靈を勸請せしもの也。

一若一王子七社大權現 升田新村 社人高橋美濃。

〔村翁夜話集〕

神吉莊

○村社 八幡神社 宮前村

祭神 譽田別命

氏子 宮前村 鼎村 大國村 西村 中西村 神

吉村 天下原村 砂部村

人皇百二代稱光天皇の應永三年大國村に一社を創建し神吉莊拾一个村の氏宮とす、應仁二年現今の地に社殿を移す、寛永九年十一月火を失して全部焼失、天和三年閏五月再建成就、即ち現時の本社とす。

上棟 八幡宮御神殿

天和三年正月 手斧初

同 年閏五月 普請成る

神吉村 次左衛門 久兵衛

天下原村 庄右衛門

世話人 宮前村 七兵衛

清水村 久太夫

下富木村 作太夫

大工 高砂町兵太夫 屋根葺 丹波國岡村勘兵衛

261053

○妙見宮由來記

播磨國印南郡神吉村妙見山寶林寺中之坊の祀れる妙見大明神は人皇百二代稱光天皇の應永年中九月二十三日夜一天雲無く月光赫灼として輝きしが俄然天は雷霆の響くが如く地は震動して躍るに似たり、衆皆奇異の思をなし南を顧み北を眺め西を睥み東を瞰き或は天を仰ぎ地に伏し其驚愕名状すべからず、夜將に曉げなんとする時東天亦赫々として暉り輝くこと電光の如し、其日正午の頃に至りて僧俗男女貴賤老少且行き且倒れ驚惶疑懼して恰も魂識を失し其耳を聳するが如きことあり、此時に當りて圭光山鞍馬寺の靈嗣より明星來現し給へり、之を窺ひ見んと欲する者東西より來りて市をなし殆んど巖岳の上下に満てり、是よくよく異なる靈岳と謂ふべし、而して此光耀日を経時を重ぬるも消ゆることなく赫然滄海を照し普く碧天を輝せり、時に託宣ありて曰く躁ぎて驟くこと勿れ吾は是天の明星の根本たる虚空藏大菩薩也と、即ち妙見大明神の本地は虚空藏大菩薩にましまして其位は峯のいや高きが如く其清きこと天の澄渡れる



(社神幡八吉神)